

# 『リベカの信仰と過ち』

'23/05/14



聖書箇所: 創世記 24 章 1-14 節、他(旧約 p.35-)

皆さんは、その親御さんから、どのような影響を受けておられますか?…自分が愛し愛された記憶や楽しかった思い出もあれば…、あるいは、悲しかった思い出…、また、きっと忘れられない出来事などもあったかと思えます。親が、その子どもたちに与える影響というものは甚大で、その大きさは計り知ることができません。そうではないでしょうか?

## 命題: ヤコブの母であったリベカは、どのような信仰を持っていた?

今日は「母の日」ということで、いつもの「エペソ人への手紙」からではなく…、旧約聖書の族長であった、イサクと結婚をして…、あのヤコブの母ともなった「リベカ」という人物の信仰と、また、彼女が犯してしまった幾つかの過ちについて、見ていきたいと思います。そうすることによって、私たちがクリスチャンとして、ますます成長していくことができ…、まずは、皆さんが…、そして、皆さんの家庭が、今よりも、もっと主にあって成長していけることを願うものです。

今日学んでいく聖書のみことばは、週報に載っております創世記 24 章 一部だけでなく、もっと広い範囲になります。まあ、主に、創世記の 24 章から 27 章までになりますが…、まずは、リベカという女性が、初めて、聖書に登場してくる創世記 24:1-14 のみことばから見ていきたいと思います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、創世記 24:1-14 をご覧くださいませ? 初めに、こちらの方で読ませていただきます。

- 1 アブラハムは年を重ねて、老人になっていた。【主】は、あらゆる面でアブラハムを祝福しておられた。
- 2 そのころ、アブラハムは、自分の全財産を管理している家の最年長のしもべに、こう言った。「あなたの手を私のもの下に入れてくれ。」
- 3 私はあなたに、天の神、地の神である【主】にかけて誓わせる。私がいっしょに住んでいるカナン人の娘の中から、私の息子の妻をめぐってはならない。
- 4 あなたは私の生まれ故郷に行き、私の息子イサクのために妻を迎えなさい。」
- 5 しもべは彼に言った。「もしかして、その女の人が、私についてこの国へ来ようとしませんか、お子を、あなたの出身地へ連れ戻さなければなりませんか。」
- 6 アブラハムは彼に言った。「私の息子をあそこへ連れ帰らないように気をつけなさい。」
- 7 私を、私の父の家、私の生まれ故郷から連れ出し、私に誓って、『あなたの子孫にこの地を与える』と約束して仰せられた天の神、【主】は、御使いをあなたの前に遣わされる。あなたは、あそこで私の息子のために妻を迎えなさい。
- 8 もし、その女があなたについて来ようとしなければ、あなたは私の私との誓いから解かれる。ただし、私の息子をあそこへ連れ帰ってはならない。」
- 9 それでもしもべは、その手を主人であるアブラハムのもの下に入れ、このことについて彼に誓った。
- 10 しもべは主人のらくだの中から十頭のらくだを取り、そして出かけた。また主人のあらゆる貴重な品々を持って行った。彼は立ってアラム・ナハライムのナホルの町へ行った。
- 11 彼は夕暮れ時、女たちが水を汲みに出て来るころ、町の外の井戸のところに、らくだを伏させた。
- 12 そうして言った。「私の主人アブラハムの神、【主】よ。きょう、私のためにどうか取り計らってください。私の主人アブラハムに恵みを施してください。」
- 13 ご覧ください。私は泉のほとりに立っています。この町の人々の娘たちが、水を汲みに出てまいります。
- 14 私が娘に『どうかあなたの水がめを傾けて私に飲ませてください』と言い、その娘が『お飲みください。私

はあなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言ったなら、その娘こそ、あなたがしもべイサクのために定められたのです。このことで私は、あなたが私の主人に恵みを施されたことを知ることができますように。」

## I・リベカが持っていた信仰! (創世記 24:1-14)

まずは、リベカが持っていた“信仰”について見ていきたいと思います。それを見ていくには、リベカとイサクとの結婚に関するエピソードを紹介するのが1番かと思ひ…、今のみことばを選ばせていただきました。…と言いまして、今読んだみことばには、まだ、リベカが登場してきません…。

### ●あのアブラハムが、自分の子イサクの妻に望んだ条件?

まず、ここで注目していきたいことは、イサクの父であるアブラハムの信仰です。「信仰の父」とも呼ばれて…、現代でも、多くの者たちが尊敬して止まない…、あのアブラハムは、自分の息子イサクが結婚するに当たって、どのような行動を起こしたでしょう? ⇒今日は、時間の関係もあって…、事細かく、みことばを観察していくことはしませんが…、簡単に、要所要所だけを確認していきたいと思います。

さて、この時のアブラハムは、自分自身の衰えを感じて…、もうそろそろ、イサクにも妻が必要だと考えます。実は、今読んだみことばには記されてありませんでしたが…、少し後の創世記 25:20 を見ると、この時、アブラハムは 140 歳、イサクは 40 歳であったことが分かります。そこで、アブラハムは、しもべたちの中でも、『最年長のしもべ』を選んで…、そのしもべに、イサクの嫁探しという大役を任せるわけです。…しかも、このしもべは、ただ単に、最年長であっただけでなく…、アブラハムが自分の全財産を任せていたほどの…、言わば、全幅の信頼を置いていたようなしもべであったことが分かります。アブラハムが、そのしもべにさせた、「自分のもの下に、(しもべの)手を入れさせる」という行為は、当時の慣習では、自分の遺言とも言えるような…、非常に厳粛なものであったようです。それほど、アブラハムにとって、息子イサクの結婚相手を探すということは、「一大事」であったのです…。

そのアブラハムが、そのしもべに誓わせた条件は、①自分たちが今、住んでいるカナン人の娘の中から、妻をめぐってはならない! ②イサクの妻は、自分(=アブラハム)の生まれ故郷で探さなければならない! ③しかし、息子イサクは、その生まれ故郷に連れ戻してはならない! …と言うのは、天の神様が、イサクとその子孫にカナンの地を与える約束してくださったからです。…と、まあ、こういった条件を、アブラハムは、そのしもべに誓わせました。しかし、これらの条件は、決して、簡単なものではありませんでした。だから、アブラハムも、8 節にありますように…、「もしも、その女性があなたについて行こうとしないなら、あなたは、この誓いから解かれる…」と言って、もしも、相応しい女性を見つけ出すことができなければ、私は諦める、という趣旨のことを、アブラハムが話しています。つまりは、アブラハム自身も…、自分で、こういった条件を出しているながら、これらは決して、簡単なものではないということ、十分に承知していたのです…。

### ●リベカが下した選択!

さて、このしもべは、ご主人であるアブラハムとの誓いを終えた後、10 頭ものラクダを従えて…、また、たくさんの『貴重な品々』を持って、出かけていきます。そういったことが、今日のみことばの 10 節に書かれています。また、10 節には、具体的な地名も記されています。この、『アラム・ナハライム』という場所は、エルサレムから、北へ 500-600km も上がった辺りにあります。また、今日のみことばでは省略されていますが、この時、アブラハムのしもべは、何人ものしもべたちを引き連れて…、何日間も旅をしたであろうことは間違いがありません。そこで、ようやく、アブラハムのしもべたちは、アブラハムの生まれ故郷である、『アラム・ナハライム』へ到着するわけです。

すると、そこで、アブラハムのしもべは、こんな祈りを、神様に対して捧げます、その内容が、12-14 節に書かれてありました。時は、『夕暮れ時』で、それは、ちょうど、女たちが水を汲みにやって来る頃でした。「神様、どうか、私にみこころを示してください。今、ここで私は、水を汲みに来た娘たちに、「どうか、水を飲ませてください…」と言いますから、その中で、「どうぞ、お飲みください。また、あなたのラクダにも、水を飲ませてあげましょう！」と言う女性が、神様が備えてくださった、みこころの女性だと思えます」って…。

すると、このしもべが祈り終わらない内に、やって来たのが、『リベカ』でありました。このリベカは、『アブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカの子ベトエルの娘…』、つまり、イサクから見ると、いとこの娘にあたる人物でありました。アブラハムのしもべは、このリベカに対して、先程祈った通りのこと…、つまり、『どうか、あなたの水がめから、少し水を飲ませてください。』ということを出します。すると、リベカは、『どうぞ、お飲みください。だんなさま』と言って、アブラハムのしもべに水を飲ませてやった、と言うのです。

そして、注目したいのは、その次です。どうぞ、皆さん、今日のみことばのすぐ後、19 節にご注目ください。ここで、リベカは、『あなたのらくだのためにも、それが飲み終わるまで、水を汲んで差し上げましょう』ということを行っています。…皆さん、どうか、注目してください。ここで、リベカは、ラクダたちが、水を『飲み終わるまで…』、水を汲んであげましょう、ということを行っているのですが、この時、彼らの周りには、何頭のラクダがいました？⇒10 頭ですよ！リベカの周りには、10 頭ものラクダたちが居たはずなのです。…にも関わらず、リベカは、「ラクダたちが飲み終わるまで、水を汲んであげましょう！」と言ったのです。皆さん、これが、どれほど大変なことか、ご存知でしょうか？

私も調べてみたら、ラクダは、何十リットルもの水を飲んで、からだの中に蓄えるのだそうです。多い時には、1 頭で 100ℓもの水を飲むこともあるのだそうです。まあ、さすがに私も、この時、リベカが、1ℓの水を汲んだとは思いませんが…、でも、彼女は、ラクダたちがまあ、「ある程度、満足するまで、水を飲ませてあげましょう！」ということを行ったわけで、その一言で、リベカという女性が、どれほど、親切で、心優しい人物であるかが分かります。…そうじゃないでしょうか？

恐らく、そういったこともあって…、アブラハムのしもべは、このリベカこそが、主がイサクのために備えてくださった、みこころの女性であるという確信を持ちます。だから、彼は、そこで、主を礼拝するのです。そのことが、さらに、もう少し後の 26-27 節に記されています。皆さんも、よくご存知のように、私たちの持っている新改訳聖書では、すべてのものを造られた真唯一の神様のことを表わしている、特別な言葉（聖四文字＝エホバ、ヤハウエ）を、太字の『【主】』(יהוה)という言葉を使って表わしています。当然のことながら、このしもべもまた、真唯一の神を信じ…、その神のみこころに従おうとする人物であったのです…。

そして、どうぞ皆さん、もう少し後の、34 節以降をご覧ください。ここで、アブラハムのしもべは、自分が、ここに遣わされて来た、経緯を正直に話します。そして、今度は、もう少し後の 50 節以降をご覧ください。ここでは、しもべの話を聞いた後の、リベカたちの反応が記されています。50 節に登場している、『ラバン』とはリベカのお兄さんで、創世記のもう少し後の方でも登場してきます。また、『ベトエル』と言いますのは、リベカのお父さんになります。

ここで、彼ら…、つまり、リベカの父親と兄弟とが、何と言ったか注目してみてください。50-51 節です、『50 するとラバンとベトエルは答えて言った。「このことは【主】から出たことですから、私たちはあなたによしあしを言うことはできません。51 ご覧ください。リベカはあなたの前にいます。どうか連れて行ってください。【主】が仰せられたとおり、あなたの主人のご子息の妻となりますように。』⇒さあ！ここで、先程見た、『【主】』という言葉が使われています。言うまでもなく、リベカの家族もまた、真唯一の神様を信じていただけじゃない！その神様のみこころに、精一杯従おうとしていた人物であったということが分かるのです…。

どうぞ、皆さん、今度は、もう少し後 52 節以降をご覧ください。そこで、アブラハムのしもべは、『【主】』を礼拝して…、その後、リベカの家族たちと一緒に飲み食いします…。そして、その翌日になって、「リベカを連れて帰りたい！」と申し出ます。しかし、あまりの突然さに、リベカの家族は、「せめて、10 日位は一緒に居させて、別れをさせてください！」と言います。それは、当然のことですよ？…しかし、アブラハムのしもべは、「いえ、急いで帰らせてください！」と言います。もちろん、リベカを連れて、です。そういった内容が、52-56 節に記されています。

しかし、そういったことで、彼らの信仰というものが明らかになります。何と、彼らは…、もちろん、当事者であるリベカを含めた3人は、アブラハムのしもべの、かなり無茶な？申し出を聞き入れて…、その日の内に、彼らは、カナンへと旅立って行ったのです。…皆さんは、どう思われます？この時代、いくら、それが神様のみこころである！という確信を持っていたとしても…、500km もの旅をしたら、そう簡単に戻って来られるものではありません。もう2度と会えないかも知れないのです。…にも関わらず、リベカとその家族は、「それが、神様のみこころであるから！」という、その理由だけで、その日の内に行動を始めたのです。スゴイ信仰&スゴイ従順ではないでしょうか？

リベカが自分の生まれ故郷を離れて…、結婚のために、500-600km も離れたカナンへ旅立って行く、ということは、ある意味、自分の家族を犠牲にする、ということにもなります。それだけではなく、故郷に居る友人たちや、すべての人間関係を捨てて、新しい場所へ旅立って行く、という風にも言えます。しかし、それでも、リベカとその家族は、神様のみこころを受け入れて、それに従っていこうとしました。そして、創世記 24:60 にあるように、彼らは、祝福の内に、リベカのことを送り出していってあげます…。

確かに、今から 4000 年も前の、この時代と今の時代とは、色々な点で違うので、一概に比べることはできません…。しかし、もしも、皆さんが、このリベカの立場であつたら、神様のみこころに従って、まだ1度も会ったことのないイサクのところへ…、しかも、結婚するために、生まれ故郷と家族から離れて、行くことができるでしょうか？でも、それが、神様のみこころだということだけは分かっているのです。

皆さんもご存知だと思います。かつて、息子のイサクが与えられる前、アブラハムは、神様からの召しを受けて…、自分の生まれ故郷を出て、神様の示す地へ行くように命じられました。その頃、アブラハムは 75 歳…、妻のサラは 65 歳でありました。そんな年で、彼らは、神様が、この後、自分たちをどこへ遣わされるのか分からないまま、自分たちの生まれ育った場所を出て行きました。…と言うのも、それが、神様のみこころであつたからです。そのゆえに、神様は、彼らのことを祝福して…、彼らに、念願の息子を与えてくださいました。それが、このイサクでありました…。

そのように、神様は自分のみこころを尊重し…、そのみこころに従おうとする者を祝福して下さいます。確かに、そこには本当の信仰があります！…と言うか、信仰が無くては、自分の安定した現在を捨てて、神様のみこころに従って、先の見えないところへ出て行く、なんてできっこないでしょう？アブラハムの場合、神は、愛する息子イサクでさえ、神のみこころの故に、「神に全焼のいけにえとして捧げなさい！＝つまり、イサクを殺してしまいなさい！」ということ命じられました（創世記 22 章）。その時、アブラハムは、どうしました？…何と驚くべきことに、アブラハムは神のみこころに従って、イサクを殺そうとしたでしょ！それは、つまり、「もしも、自分がイサクを殺しても、神がよみがえらせてくださる！」と信じていたからです（ヘブル 11:18-19）。

そういったようなことを、新約聖書で、ヤコブは、このように証ししてくれています。どうぞ、皆さん、もしもできましたら、ヤコブ 2:17-24 をご覧ください。『17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったら、それだけでは、死んだものです。18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなた

たに見せてあげます。19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。20 ああ愚かな人よ。あなたは行いのない信仰がむなししいことを知りたいと思いませんか。21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。22 あなたの見ておると、彼の信仰は彼の行いとともに行いのであり、信仰は行いによって全うされ、23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた」という聖書のことが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。24 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。』

いかがでしょう、皆さん？ここで、ヤコブは、「救いとは、行ないによるのである！人は皆、行ないによって救われるのだ！」ということをお教えています？⇒いいえ、そうじゃありません！このみことばは、「本物の信仰には、必ず行ないが伴う！行ないが伴わない、口先だけの信仰は本物の信仰ではない！」ということをお教えているのです。実は、ここ…、22節のみことばで、『信仰は行いによって全うされ…』とありますが、ここで『全うされ…』と訳されてある言葉は、「完成する、成し遂げる、成就する…」という意味の言葉で、「つまり、信仰には行ないがあって、初めて、完成する！本物の信仰には、必ず、行ないが伴う！」ということをお教えているのです。

そういったことは、ヤコブ書だけではなく…、この聖書全体が、一貫して教えてくれているのではないでしょうか？…もう、私たちは過去何度も、こういったことについて学んできましたので、今日、もう1度、そのことを復習することはしません。今日、私たちが確認したいことは、アブラハムやリベカが、自らの信仰の故に、神様に従おうとした！ということです。もちろん、彼らも、また、私たちと同じ罪人です。…にも関わらず、彼らは必死に、神様とのみことばに従おうとしました。どうぞ、そのことをご理解いただきたいと思ひます。

## Ⅱ・リベカが犯した、幾つかの過ち！（創世記 25-27 章から抜粋）

さて、そういったことを踏まえた上で…、今度は、そのリベカが犯してしまった、幾つかの“過ち”について、ご一緒に、確認していきたく思ひます。そうすることで、今度は、私たちが、自分たちの罪や弱さに気付くことができ…、リベカと同じような過ちを犯さずに済むよう、願うものであります。どうぞ、皆さん、今度は、創世記 25:21-28 をお聞きください。

- 21 イサクは自分の妻のために【主】に祈願した。彼女が不妊の女であったからである。【主】は彼の祈りに答えられた。それで彼の妻リベカはみごもった。
- 22 子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったとき、彼女は、「こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか。私は」と言った。そして【主】のみことばを求めに行った。
- 23 すると【主】は彼女に仰せられた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれる。一つの国民は他の国民より強く、兄が弟に仕える。」
- 24 出産の時が満ちると、見よ、ふたごが胎内にいた。
- 25 最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それでその子をエサウと名づけた。
- 26 そのあとで弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それでその子をヤコブと名づけた。イサクは彼らを生んだとき、六十歳であった。
- 27 この子どもたちが成長したとき、エサウは巧みな猟師、野の人となり、ヤコブは穏やかな人となり、天幕に住んでいた。
- 28 イサクはエサウを愛していた。それは彼が猟の獲物を好んでいたからである。リベカはヤコブを愛していた。

### ① 偏った愛し方をしてしまった！（創世記 25:21-28）

今読んだみことばには、神様のみことばによって結婚したイサクとリベカたちに、どのように、子どもたちが与えられたか？ということが記されておりました。…そうして、多分、皆さんは気付いてくださったはずで、ここで、聖書のみことばは、イサクとリベカが、親として、大きな過ちを犯していたことをお教えておりました。それは、偏愛…、つまり、“偏った愛”であります。何と、彼らは、偏った愛し方をしてしまったのです…。

今読んだみことばの、28節に、『イサクはエサウを愛していた。…リベカはヤコブを愛していた。』という文句が記されておりました。…つまり、父親であるイサクは、兄弟の内ヤコブよりもエサウの方をより愛し…、一方のリベカは、兄弟の内エサウよりもヤコブの方をより多く愛したと言うのです。そういったことを、もちろん、天の神様は、すべて御存知でありました。だから、少し前の23節で、神は予言をしてくださっていて…、そのことを予め、リベカに語ってくださったのです。もちろん、問題は神様の側にあったのではありません！…問題があったのは、偏った愛し方をしてしまったリベカであり…、また、イサクの方でありました…。

でも、一体どうして、イサクも…、リベカも、そんなことになってしまったのでしょうか？残念ながら、聖書の中に、はっきり、これと分かる証言は書かれておられません。しかし、ひょっとしたら、これが原因の一つでは？と思われるものがあります。それは、彼らには、すぐに子どもが与えられなかったということです。先程見たように、イサクとリベカが結婚したのは、イサクが40歳の時でありました。しかし、先程読んだみことばでは、イサクたちに子どもが生まれたのは、イサクが60歳の時であったということが記されておあります。つまり、彼らは、結婚をした後、約20年間も、子どもが与えられなかったのです…。

もちろん、それが原因そのものではありません。しかし、私たち人間とは弱い罪人で…、自分の思い通りに事が運んでいかないと、イライラしたり…、失望したり…、あるいは、間違った道を歩んでしまいがちです。また、そういったような時、私たちがつい犯してしまいがちな間違いは、神様のみことばよりも、自分の考えや願ひの方を優先してしまうことです。…皆さんも、ついつい…、「神のみことばよりも、自分の考えの方が正しいのに！」なんて、思ってしまったようなことが無かつたでしょうか？…もちろん、こういったことが、イサクやリベカに、必ず起こった！というわけではありません。しかし、明らかなことは、彼らの内に、何かがあったということです。そうして、彼らは、自分たちの子どもをえこひいきするという、“間違った”育て方をしてしまいました。…果たして、そのような間違った育て方に、神の祝福があるのでしょうか？…そういったことを、このみことばは教えておてくれています。

### ② 夫ではなく、子どもの方を優先してしまった！（創世記 27:1-10）

その次に見ていきたいことは、リベカが“夫”のイサクではなく…、“子ども”の方を優先してしまったという問題です。そのことが、創世記 27:1-10 に記されておあります。『1 イサクは年をとり、視力が衰えてよく見えなくなったとき、長男のエサウを呼び寄せて彼に「息子よ」と言った。すると彼は、「はい。ここにいます」と答えた。2 イサクは言った。「見なさい。私は年老いて、いつ死ぬかわからない。3 だから今、おまえの道具の矢筒と弓を取って、野に出て行き、私のために獲物をしとめて来てくれないか。4 そして私の好きなおいしい料理を作り、ここに持って来て私に食べさせておくれ。私が死ぬ前に、私自身が、おまえを祝福できるように。」5 リベカは、イサクがその子エサウに話しているのを聞いていた。それでエサウが獲物をしとめて来るために、野に出かけたとき、6 リベカはその子ヤコブにこう言った。「いま私は、父上が、あなたの兄エサウにこう言っておられるのを聞きました。7 『獲物をとって来て、私においしい料理を作り、私に食べさせてくれ。私が死ぬ前に、【主】の前でおまえを祝福したいのだ。』8 それで今、わが子よ。私があなたに命じることを、よく聞きなさい。9 さあ、群れのところに行って、そこから最上の子やぎ二頭を私のところにおいで。私はそれで父上のお好きなおいしい料理を作らましよう。10 あなたが父上のところに行って行けば、召し上がって、死なれる前にあなたを祝福してくださるでしょう。』』

ここで、父親であるイサクは、兄エサウのことを祝福しようとします。しかし、そのことを知ったリベカは、そうではなく…、自分の愛する弟息子ヤコブの方をイサクに祝福させようとして、一計を案じます。…というのも、この時、イサクは非常に目が悪かったからです。そこで、リベカは、弟息子ヤコブのために、子やぎを料理して…、父イサクのところへと持って行かせます。皆さん、気付いてくださいました？…ここ 7 節でも、**真唯一の神様のことを指す、『【主】』**という言葉が使われてありますでしょ？つまり、この時、母親であるリベカは、弟息子ヤコブを愛するがあまり、イサクだけでなく…、神様までも欺こうとしていたわけなのです。

聖書のみことばは、はっきりと教えてくれています。…この時、母親であったリベカが1番に優先すべきであったのは、息子たちではなく…、夫であったイサクだ！って…(もちろん、1番のご主人は神様だが…)。そうじゃありません？…例えば、私たちが少し前に学んだ、エペソ 5 章のみことばです。どうぞ、**エペソ 5:22-24** をご覧ください。『**22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。24 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。**』

⇒このように、聖書のみことばは、妻たちが、基本的には、まず夫に従うべきことを教えてくれています。それこそが、主のみことばであるからです。確かに、これは、新約聖書に記されてある教えであって…、リベカは、このみことばを知りませんでした…。でも彼女は、創世記 2:24 の教えを知っていたはずですよ。創世記 2:24 には、**こう記されてあります、『それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。』**って…。このみことばを見ても、夫婦関係は、親子関係以上に優先されるべきことが分かります。それこそが、神様のみことばなのです。…良いですか、皆さん。神様のみことばというものは、神様の身勝手な要求ではありません。神様のみことばとは、神様の御性質を表わすものであって…、私たちにとっても1番良い…、最高の祝福を得られる…、1番の近道なのです。だって、神様は、私たちのことを愛し…、その私たちに1番良いことをしてくださいような御方じゃないですか！そうでしょ？…だから、神様のみことばを求め、それを私たちが追及していくことは、私たち自身の祝福にも繋がっていくことなのです。

### ③子どもたちに、悪い模範を示してしまった！（創世記 27:41-45）

そうして、最後3つ目に、私たちが見ていきたい…、リベカの過ちは、彼女がその子どもに、悪い“模範”を示してしまった！ということです。どうぞ、皆さん、今度は、**創世記 27:41-45** をご覧ください。そこには、こう記されてあります。『**41 エサウは、父がヤコブを祝福したあの祝福のことでヤコブを恨んだ。それでエサウは心の中で言った。「父の喪の日も近づいている。そのとき、弟ヤコブを殺してやろう。」**」42 兄エサウの言ったことがリベカに伝えられると、彼女は使いをやり、弟ヤコブを呼び寄せて言った。「よく聞きなさい。兄さんのエサウはあなたを殺してうづぶんを晴らすようとしています。43 だからわが子よ、**今、私の言うことを聞いて、すぐ立って、ハランへ、私の兄ラバンのところへ逃げなさい。**」44 兄さんの憤りがおさまるまで、**しばらくラバンのところにとどまっていなさい。**」45 兄さんの怒りがおさまると、あなたが兄さんにしたことを兄さんが忘れるようになったとき、私は使いをやり、あなたをそこから呼び戻しましょう。一日のうちに、あなたがたふたりを失うことなど、どうして私にできましょ。』

⇒ここで、兄のエサウは、自分が欺かれたということで、弟ヤコブのことを激しく憎みます。しかし、その時も、リベカがしたことは、正直に自分の罪を悔い改めて、赦しを請うとか、和解に努めるということではありませんでした…。彼女は、弟息子ヤコブに対して、『しばらく』の間、お兄さんのラバンの所へ行行って、身を隠すよう勧めるわけですよ。しかし、実際は、『しばらく…』ではなく、何と 21 年もの間、彼ら兄弟たちに和解が訪れることはありませんでした…。しかも、そのことを勧めたのは、母親であったリベカだったのです。

ここでも、私たちは、リベカの間違いに気付きます。一体、どうして、リベカは、このような初歩的な過ち

を犯してしまったのでしょうか？…かつては、あれほど、神様のみこころを重んじて、神様に従順であったリベカが…。それもこれも、リベカが、神様のみこころではなく…、自分の願いや考えを優先してしまったことであつたのではないのでしょうか？本来なら、彼女は、その子どもたちを偏って愛するのではなく…、その両方ともを同じように愛するべきでした。また、彼女は、いくら可愛くても…、子どもを自分の夫以上に愛するのではなく、まずは、夫であるイサクとの関係をしっかりと築いた上で、子どもたちと接するべきでありました。…また、彼女は、自分や子どもが間違いを犯してしまった時、それを隠そうとしたり…、そこから逃げようとしたりするのはなく…、しっかりと、その罪を神の前に正しく悔い改めて、神様の前に正しい方法で、赦しを請うべきでありました。…しかし、残念ながら、リベカは、そういったことをしようともしませんでした。だから、その結果、家族がバラバラになってしまって…、ますます、神様からの祝福を逃してしまったのです。

### <励ましの言葉>

こういふことを通して、私も、また、皆さんも学ばないといけないことは、私たちは、神である主に対して、忠実であらなければならない！ということではないでしょうか？…皆さん、ご存知ですか？…天の神様は、救われた私たちに対して、どのような評価で…、あるいは、基準で、ほうびを与えてくださるでしょう？⇒例えば、天の神様は、私たちに与えられた賜物や働きによっては評価なさいません。それらは、基本的に、神様からの賜物、あるいは、神様のみことばであるからです。…天の神様は、私たちが救われて以降、どのように歩んできたか？あるいは、私たちが天の神様に対して、どの程度、忠実であったか？ということ、評価して下さるのです。

例えば、かつて、イサクやリベカが、神に対して忠実であった頃、確かに、そこには困難もありましたが…、しかし、そこには間違いなく、神様からの祝福がありました。イサクだって、40 歳になるまで独身で…、「本当に、自分に子どもが与えられるのか？自分を通して、多くの子孫が繁栄するという神の約束がありましたか、本当だろうか？」という不安もあったかと思えます。また、リベカにしても、誰も知った者が居ないような土地へ嫁に行行って、不安や混乱だらけであったかと思えます。でも、そんな中でも、彼女は守られました。…そうではないでしょうか？

でも、彼女が神様のみこころを無視して…、自分の考えや願望を優先してしまったところから、彼女の罪が、より大きな問題や不幸を招いていってしまいました。…神様が今、私や皆さんに対して願っておられることは、私たちが、今日も明日もまた、主にあって忠実であり続けることです。そこにこそ、神様の祝福があるのです！…神様の祝福とは、必ずしも、私たちが健康になるとか、この地上で繁栄するということではありません。でも、間違いなく、神様が祝福して下さるところには、神様が共に居てくださり、平安があります。…天の神様は、皆さんのことを愛し…、その皆さんが幸せになることを願っておられます。どうか、皆さん、この神様の前に、忠実に歩いていっていただきたい…。そして、どうぞ、この神様を、あなたの神、あなたの救い主として、信じ救われていただきたいと思えます。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。